

卒寿記念 人間国宝 鈴木藏の志野展

Shino Type by SUZUKI Osamu, a Living National Treasure: In commemoration of his ninetieth birthday

2024年3月19日〔火〕－6月2日〔日〕



開館時間：午前9時30分～午後5時30分 ※入館は閉館の30分前まで

休館日：月曜日（ただし4月1日、8日、29日、5月6日は開館）、5月7日

観覧料：一般 1,000円（900円）／大学生 600円（500円）

＊（ ）内は20名以上の団体料金および割引料金。＊いずれも消費税込。

＊オンラインによる事前販売もあり。

＊高校生以下および18歳未満、MOMAT支援サークルパートナー企業（同伴者1名まで、シルバーパートナーは本人のみ）、障害者手帳をお持ちの方と付添者（1名）は無料。

○割引対象：石川県立美術館・金沢21世紀美術館・石川県立歴史博物館・

石川県立伝統産業工芸館（いしかわ生活工芸ミュージアム）・

金沢市立中村記念美術館・金沢ふるさと偉人館の主催展覧会入場券半券、文化の森おでかけパス（一般のみ）を窓口で提示した方。キャンパスメンバーズ。

主催：国立工芸館、NHKエンタープライズ中部、北國新聞社

掲載用問い合わせ先：050-5541-8600（ハローダイヤル）

「志野」に革新をもたらした人間国宝・鈴木藏の卒寿を記念する展覧会 約60年にわたるキャリアを代表する傑作が集う！

展覧会概要

日本を代表する陶芸家、鈴木藏(1934-)。荒川豊蔵(1894-1985)に続き二人目の「志野」における重要無形文化財保持者(人間国宝)です。

鈴木藏は岐阜県土岐市に生まれ、多治見市市之倉町の丸幸陶苑(まるこうとうえん)に勤務する父の助手として働く中で、本格的にやきものづくりの道へと進むこととなります。1966年31歳で独立し、薪窯でしか焼けないとされていた「志野」にガス窯で挑戦し、自然への畏敬の念を重んじ、伝統を大切にしながら独自の作陶スタイルを確立していきます。そして、作品を作るなら「新しくて、力強いもの」という姿勢を崩さず今日まで取り組んできました。

本展では、2024年の今年、卒寿を迎えるのを機に、初期から最新作までの作品を一堂に展示します。

古典を大切にしながらも、鈴木藏の美意識を映し出した独自性に富んだ作品を展示することで、鈴木藏の軌跡と“今”をご紹介します。

展覧会のポイント

▶ 鈴木藏(すずき おさむ、1934-)

1994年、59歳で重要無形文化財「志野」の保持者に認定され、現役陶芸家として最長の人間国宝です。

「伝統ということについて、物をつくる側から言えば、革新しかありえない。つまり、革新の中から生まれたものが、伝統となっていく」(鈴木藏氏の言葉から)

焼成による偶然を待つのではなく、確かな意志を持った中で「志野」を制作し、とくに造形に独自性を持つ作品をつくり出し、作陶に向き合い続けています。

▶ 「志野」とは

「志野は日本で生まれた独特の創作であり、日本人の感性、美意識といった最も基本的なすべてが凝縮されている。」(鈴木藏氏の言葉から)

「志野」は日本陶磁の歴史において初めての白いやきものであると共に、初めて筆を使って絵付けを施したやきものです。16世紀後半の桃山時代にその多くが美濃*で焼成されました。

*美濃とは、美濃焼を生産した岐阜県の南東部、東濃地方を指します。

「志野」の技法は追求され続け、長石釉(ちょうせきゆう)のみの「無地志野」、下絵付けによる鉄絵が施された「絵志野」、鉄化粧を掛けてその色合いの変化による「鼠志野」や「紅志野」、「赤志野」、二種類の土を混ぜ合わせた「練上(ねりあげ)志野」などがあります。

暖かみを感じる白色の釉薬に、焼成によって生まれるほのかな赤みの「緋色」と、「ゆず肌」と呼ばれる表面に現れるピンホールが見どころです。



鈴木藏氏近影



鈴木藏《志埜大皿》1991年
国立工芸館蔵

イベント

鈴木藏氏のトークイベント、研究員によるギャラリートークなどを開催予定です。

* 詳細はホームページにてお知らせしますので、当館ウェブサイトをご確認ください。

記者発表会・内見会

一般公開に先駆けて報道関係の皆さまのみの発表会、および内見会を行います。

3月18日(月) 午前11時30分～午後1時(受付開始 午前11時30分)

記者発表会終了後の午後0時半からの内見会には、鈴木氏の参加も予定しております。

参加ご希望の方は、後日ご案内いたします申込書に、必要事項をご記入の上、メールまたはFAXでご連絡ください。

次回展予告

2024年6月18日(火)～8月18日(日)

おとなとこどもの自由研究 工芸の光と影展

工芸を前に思わずこぼれるため息の源をさぐる展覧会。キーワードは「光」、そして「影」。物質感やかたち、構造由来の輝きがあこがれをかき立てる一方で、そこに漂う謎めいた陰影もまた目と心を捉えてやみません。そのコントラストとハーモニーに浸り、学びましょう。皆さんの「うっとり」を応援するプログラムもご用意しました。



小川雄平《陶製黒豹置物》(部分)
1933年 国立工芸館蔵



〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-2
<https://www.momat.go.jp/craft-museum>

アクセス：

バスにて

JR金沢駅兼六園口（東口）より

【北鉄バス】

3番乗り場：どの系統でも乗車可、「広坂・21世紀美術館(石浦神社前)」下車徒歩7分

6番乗り場：乗車(「柳橋」行を除く)、「出羽町」下車徒歩5分

8番乗り場：どの系統でも乗車可、

「広坂・21世紀美術館(しいのき迎賓館前)」下車徒歩9分

車にて

北陸自動車道金沢西ICまたは金沢森本ICから20～30分。

近隣に文化施設共用駐車場（無料）があります。



報道関係の方のお問い合わせ先

国立工芸館 広報事務局(株式会社OHANA内)

Tel: 03-6869-7881 Fax: 03-6869-7801

E-mail: ncm@ohanapr.co.jp

広報用画像一覧



図版No.1 展覧会チラシ



図版No.2
鈴木藏《志野陶塑》2018年
個人蔵



図版No.3
鈴木藏《志野大皿》1991年
国立工芸館蔵



図版No.4
鈴木藏《志野茶碗》2013年
国立工芸館蔵



図版No.5
鈴木藏《志野茶碗》2019年
個人蔵



図版No.6
鈴木藏《志野陶塑》2022年
個人蔵



図版No.7
鈴木藏《志野花生》1995年
個人蔵



図版No.8
鈴木藏《志野茶碗》2006年
国立工芸館蔵



図版No.9
鈴木藏《織部大皿》1972年
個人蔵



図版No.10
鈴木藏《鉄釉鉢》1967年
京都国立近代美術館蔵

特別出品



図版No.11
重要文化財
《鼠志野茶碗 銘 峯紅葉》
桃山時代/16~17世紀
五島美術館蔵



図版No.12
鈴木藏氏近影

上記画像No.1~12を広報用にご提供いたします。ご希望の方は当館ホームページの画像提供システムよりお申し込みください。

※読み方【志埜：しの】

<https://www.momat.go.jp/craft-museum/reproduction>



*展覧会をご紹介いただける場合は、読者プレゼント用招待券（5組10枚）をご用意しております。ご希望の方は画像申請の際に「その他」欄よりお知らせください。